

ガマンコ親父の

悪魔は地上の様子を監視していた。人々が幸せにならないように見張っていたのだ。目を凝らすと、ある王族の家族に三人の男兄弟がいた。マツジローの兄二人は都会に出て生活していたが、遊び好きで金使いが荒く、暮らして困窮していた。実家に戻ってきては財産を分けて欲しいと父親にせがんだ。兄思いの末っ子のマツジローは「お父さん、僕は財産要らないから兄さん達に分けてあげてください」と財産分けに賛成した。

悪魔は欲を見せないマツジローを見て、「こんでもない馬鹿じゃなか、こいつ」と呆れた。おかげで楽しみにしていた金銭をめぐる兄弟三人の血みどろの戦いが見れなくなってしまう。それならばと、息子である小悪魔を使って権力欲の強い長男と、金銭欲が強い次男にそれぞれ甘い罠を仕掛けさせ、二人が持ち帰った財産を巻き上げた。しかし、末っ子のマツジローだけは小悪魔の甘い儲け話の意味が分からず、話に乗ることはなかった。さらに小悪魔は悪だくみを仕掛けたが、マツジローは耐えかねて、逆に小悪魔をとっ捕まえてしまったのだ。

大切な一人息子を捕えられた悪魔は憔悴し、マツジローに交換条件を出した。兵隊が続々出てくる魔法の麦穂、使っても使っても中の金貨が減らない財布、どんな病気にも効く木の根をあげるから、息子の身柄と交換してくれとマツジローに提案。二人の兄が喜びそうなものが手に入るとわかったマツジローは小悪魔を解放。その後、無一文になって帰ってきた二人の兄たちは、マツジローの宝物を見て、長男は兵隊が続々出てくる魔法の麦穂を、次男は使っても中の金貨が減らない財布を欲しがった。やがて、二人はもらった宝でそれぞれの国で王位を手に入れた。

自分の国に残ったマツジローは王女の難病をどんな病気にも効く木の根で治した。それが縁で、嘘を言わない実直な性格に惚れた王女から結婚の誘いを受けたのだ。やがてマツジローは王になるが、昔から続いていた農業を止めなかった。手のひらはマメだらけで、国民に対しても「手にマメをつくったものこそが、食べる権利を持つ」というおふれを出して、体を使って働くことを奨励した。

悪魔は自分の息子に恥をかかせたマツジローとその兄弟が人生の成功者になったのが腹立たしかった。悪魔は報復を誓い、三人の宝物を盗み返した上で、周りの国に戦争を仕掛けさせるなど、兵力や富を散財させ、国を窮地に陥れた。ただ、マツジローの国民だけは、軍隊を持たせようと働きかけてもその気はなく、ただ毎日一生懸命、農地に出て働くだけだった。悪魔が国民みんなに金貨を見せつけても、誰も欲しがらないし、育てた農作物の収穫と『しまっちゅ伝蔵』だけで幸せだと相手にされなかった。

悪魔は叫んだ。「金貨だぞ、金貨。お前ら本心を言わんの、馬鹿じゃないのか。もっと自分に素直になれ、俺のようにな」と。実に悪魔らしくない言葉だったので、言った後、悪魔は少し照れた。「まあ、今日はエープリルフールだからな」。それにしても言わんの馬鹿なんて、どこかで聞いたことがあるなど、悪魔は頭を振って記憶を探った。



奄美黒糖焼酎
常圧蒸留
昔ながらの手造り
こだわりの焼酎
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
0997(65)0251

「言わんの馬鹿」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。